



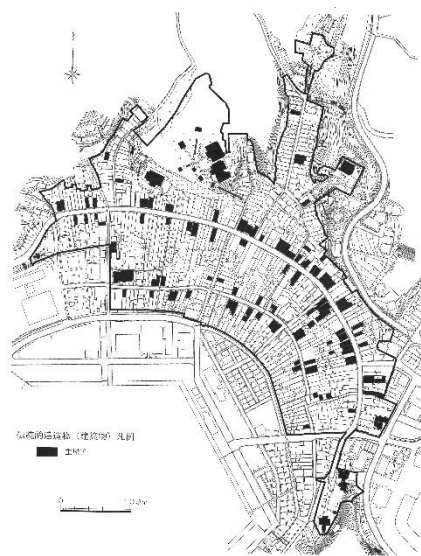
佐渡市小木町(新潟県)

(1) 保存地区の概要

地区名	佐渡市小木町
種別	港町
面積	約13.3ヘクタール
選定年月日	令和6年8月15日

特徴

佐渡市小木町伝統的建造物群保存地区は、佐渡島の西南部にあり、円弧状の入り江に沿って形成された港町である。江戸時代に佐渡金銀山で産出した金銀の積出港として整備され、北前船の寄港地として繁栄した。享和2(1802)年に発生した地震による隆起等の地形の変容を巧妙に受け入れた町並みが見られる。2階全面を通り側に張り出した表構えやオイエ(居間)の吹抜け空間が特徴的な町家が建ち並ぶ。



保存地区(拡大図)



位置図

(2) 保存地区のあゆみ

平成19年度(2007)	新潟大学都市計画研究室により小木町地区の調査が行われる。
平成29年度(2017)	日本遺産『荒海を越えた男達の夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～』構成文化財の一部として小木町の建造物や無形民俗等が認定を受ける。
平成30年度(2018)	「おぎ町並み保存推進委員会」が発足する。
令和3年度(2021)	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査を2ヶ年で実施する
令和6年度(2024)	『重要伝統的建造物群保存地区』に選定

(3) 保存地区の保存と整備

令和6年度から修理修景事業の受付を開始し、事前調査等を行い、令和8年度から工事着手予定



入り江に沿って形成された町並み



緩く弧を描く通り

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 伝統的建造物の活用とまちづくり

近年、小木町では民間による伝統的建造物を活用した飲食店や宿泊施設の展開が行われている。令和6年度から分散型ホテルの取組も始まり、伝統的な町並みの保存と活用が進んでいる。

令和7年度には、住民による主体的な保全・活用の活動に向け、新たな住民組織発足の準備を進めている。佐渡市も住民組織と連携を図りながら、平成3年に選定された宿根木と合わせて南佐渡地域の特色を打ち出していく方針である。

その2 歴史を活かした取り組み

平成23年 世界農業遺産(ジ阿斯)の認定

平成25年 日本ジオパークの認定

令和6年 「佐渡島の金山」の世界文化遺産の登録

佐渡市では、豊かな大地の遺産、トキや天然杉などの恵まれた自然、人々が育んだ伝統文化を島の宝と捉え、これらの保護に取り組んでいる。

平成29年5月には日本遺産「荒海を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を新たに受け、宿根木のほか、寄港地である佐渡市小木町の歴史遺産(鎮守である木崎神社、湊を描いた絵図、船乗りが奉納した船絵馬等)を含め、千石船で繁栄した往時の歴史的景観の保全に努めている。



世界遺産登録決定イベント



住民による観光ガイド



地質を学ぶジオパークガイド

(5) 住民等の取組

●「環境整備」

小木町では、地元住民が主体となって地域資源等を活かした環境整備に取り組んでいる。草刈り等を行うほか、干し柿づくりなど、昔ながらの営みが表れる風景の継承を地元小学校と連携しながら実施している。

●「クルーズ船の受け入れ」

小木港に入港するクルーズ船に対して、行政と連携し、歓迎イベントを開催している。



地元小学校と連携した干し柿づくり



軒先に吊るされた干し柿



石蔵のライトアップ



クルーズ船の受け入れ